

世界チーム競歩選手権帯同報告

加藤 穰

公益財団法人日本陸上競技連盟 医事委員会 医事委員

1 はじめに

2024年4月21日にトルコで開催された世界競歩チーム選手権に帯同した。今回参加した選手団はU20が6名、シニアが12名、コーチ3名、トレーナー2名と医師1名、渉外1名という構成であった。4月15日に成田空港から出発し、イスタンブール空港を経由してアンタルヤに到着した。期間中は地中海の海岸線沿いのリゾートホテルに滞在した（写真1参照）。

2 宿泊環境

食事については三食ビュッフェスタイルで、体調にあわせながら摂取内容を調整できた。選手の中には主食を持ち込みのごはんなどで対応していた。当初は生野菜、カットフルーツに注意を促されていたものの、実際にはそれらを食べても特に大きな問題はなかった。無料で配布される飲用水は成分がトルコ語で詳細は不明であるが、カルシウム濃度から中程度の硬水だろうと思われた。

練習はホテル前の歩道が整備されており、700m程度の区間を設定し、その往復で対応した。電動キックボードやスクーターがほぼ無音で道路内に入り込んでくるため、通行には若干の注意が必要であった。気候は日中太陽光による輻射熱で暑いと感じることはあったが、おおむね20度前後で湿度も少なく快適であった。

3 競技会サポート

競技会外検査は大会2日前の朝食前に実施された(AIU指定の男子3名のみ)。地下の広間にアンチ・ドーピングコントロール室が設けられ、血液検体のみ提出した。

大会前日にはインスペクションで会場入りが許可

された。コースや陣地テント、救護室などの配置を確認。翌日は朝7時からの競技開始であるため、4時45分にホテルを出発した。U20は6名中5名がパーソナルベストを達成し（残りの1名はもともとオーバーユースによる膝の不安があり、競技パフォーマンスも万全ではなかった）収穫も多かったが、ほぼ上位を中国が占める結果となった。20kmについては、女子は直前で選手の入れ替えがあった影響もあり、18位であった。男子は5名参加し、最高で4位であった。パリ五輪にも採用された男女混合リレーは3チームが出場し、2位と17位であった。結果、リレーの2チームがオリンピック出場枠を獲得した。大会当日は非常に太陽光が強く、日中はWBGTで23度程度まで上昇した。男女混合リレーに参加した女性選手が熱中症にかかり、最初の1本目を倒れこみながらゴールした。そのまま救護室に運ばれたものの、本人が2本目の出場を希望したため、陣地テントに戻って対応を協議することになった。コーチと医師からは2本目の出場は難しいと判断し、選手にその旨を伝えるも本人は出場を固辞した。そのため、ドクターストップと判断した時点ですぐ辞めること条件に参加し、ペースをまもりなが



写真1

ら結果完走は可能であった。ゴール後陣地に戻ってしばらく静養していたが、徐々に全身蒼白となって過呼吸症状ならびにテタニー状態となったため、改めて救護室に移送。深部体温上は高体温ではないことからアイスバスは使用せず。保存的対応で症状は改善したため、そのままホテルに帰ることになった。振り返ってみると熱中症による後遺症リスクが多分に懸念されたものの、翌日には回復傾向で無事に帰国できた。ドーピング検査については尿検体が全部で4件要求されたものの、手続き上は特に問題なく実施できた。

今回 WA 主催の大会で、暑熱環境下で開催されるという状況を考慮してアイスバスが設置してあり、当該施設の視察を行った（写真2 参照）。直径3m程度の水風呂が2つ設置してあり、選手はいつでも利用可能であった。一応0度を目指しているとのことであったが、大きな氷は浮いているものの体感的には5～10度程度と思われた。特に男女混合リレーの間の30～40分の間のリカバリー目的に利用されることを狙っていたのだろうが、日本チームで利用する選手はいなかった。熱中症治療用のアイスバスは別に救護室に設置してあった。



写真2